



会報

DISTRICT 353

CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

 THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

 例会場 鶴岡市本町二丁目
ひ さ ご や

 例会日 毎週 火曜日
P.M 12:30~1:30

 事務所 鶴岡市馬場町
商工会議所内
☎ 0235 ☎ 5775

会長：三井賢二

幹事：高橋正太郎

"Good will begins with you"

By ERNST G. BREITHOLTZ

「善意は先ずあなたから」

1971.1972

第 649 号 1972.4.18 (火) (はれ)

会報はご家族みんなで読みましょう

〔I〕出席報告

| | | | | |
|-------------------|-----|--------|---|---|
| 本日 の 出 席 | 会員数 | 62名 | 欠 | 阿宗君、阿部(公)君、 荒明君、長谷川(文)君、 早坂(源)君、平田君、 五十嵐(一)君、海東君、 黒谷君、小池君、笏網君 中山君、小野寺、齋藤 (信)君、佐藤(忠)君、 笹原君、谷口君、佐々木 君、手塚君、藪田君 |
| | 出席数 | 42名 | 席 | |
| | 出席率 | 67.74% | 者 | |

| | | | |
|-----------------------|-------|--------|--|
| 前 回 の 出 席 | 前回出席率 | 74.19% | メ ー ク ア ッ プ 嶺岸君、大川君、佐藤 (忠)君—フォーラム |
| | 修正出席数 | 54名 | |
| | 確定出席率 | 87.10% | |

〔II〕お客さま

| | | | |
|------------------|-------|-------|-------|
| 今 回 | 鶴岡西 | 鶴岡西 | 鶴岡西 |
| 3 名 | 菅原年雄君 | 石井幸雄君 | 佐藤成生君 |
| 前 回 ま で | | | |
| 105名 | | | |
| 4 月 計 | | | |
| 108名 | | | |

〔III〕会長報告

1. 先程の理事会に於き、インターハイ協力費として、会員1名当り1,000円お願い致すことになりました。目下のところクラブで負担することは、困難な状態ですので、よろしく御協力の程お願いします。
2. 来期ですが、8月8日、9日、10日に亘り、アメリカーオハイオ州の合唱団100名の来日が決定して居ます。9日夜は鶴岡市8日は酒田市で公演の予定になっています。宿泊についてですが、鶴岡・酒田で人数の半分ずつを受持つことに予定しています。その50名もベアで泊めようと考えています。2泊とも同じ家に泊めて頂き度いと考えて居りますので御協力下さい。
3. やはり来期ですが、全米より大学教授及び大学院学生25名(7月30日~8月4日)が中小都市研究のため鶴岡に来市したいとのことです。男女半々とのことですが、その宿泊についてもよろしくとのことでした。

ロータリークラブの集りにて

亀川 芳子

一、アルゼンチンに渡った動機について

22年前の当時、物資の最も不足し、又精神的にも不安定な時期でした。

荏内神社近くの公会堂で行われた荻原神父の講演があり、私も友達と聞きに参りました。その内容は、日本は小さな国で「これからは、大いに海外へ一人でも多く海外へ発展するべきである」と言うことでした。そこで「女であってもそういう国へ行ってみよう」と言う考えをもち、家族の大反対を押切ってアルゼンチンに渡りました。

二、アルゼンチンに行った当時の感想

22才のまだまだ世間知らずの井戸の蛙が生れて始めて異国の土地で最も苦しかった事

1. 「言葉の不自由さ」想像をはるかにこえる切実な問題でした。最も頼りとする夫が、日本語を十分に解さない為に（小さい7ヶ月の時に両親と共に日本を出た）2年間は、翼があつたら飛んで故郷に帰りたい思いをぐっところえるのが精一杯（アルゼンチンはスペイン語が国の言葉）でした。

2. 「習慣の違い」どこを向いても分らない事ばかりで、全く羽をむしられた小鳥のように、不自由なもどかしさと、孤独感がひしひしと身にしみるものでした。

3. 而し終戦後の物資欠乏と精神的な不安定な日本から出てヴェノス市より30キロ足らずの処、夫とその家族の待っている家では眩しいばかりの蛍光灯（あの当時やっと鶴岡の映画館等に蛍光灯がとまり、まだまだ珍しい時代でした）の下に、溢れるばかりの御馳走が並んで目を見張った事も、まだまだ記憶に新しいところです。（おすし、おサシミ、かまぼこ、鯛の丸焼、鶏の丸焼き山と積んだサンドイッチ・リンゴ・オレンジ・シャンペン・ぶどう酒・その他）私の到着を祝い、主人とその家族始め、空港に出迎えて下さった方々（主に日本人）30人余りの為に、準備された食堂に出席した時、アルゼンチンにもおいしい日本の御馳走が沢山あるんだと、安心して喜んだものでした。

4. 主人の家は、両親と主人とその兄弟計6人の大世帯でカーネーション栽培の花弁業でこの仕事は園が大きい程多忙で、亀川家では当時、10本余りの温室を経営していました。

日本人を1人、外人（原代人＝アルゼンチン生まれ）を1人使っていました。あの当時の賃金は1日8時間9ペソ、現在1日8時間1,500ペソ（物価に比べ人件費がはるかに値上りしている、その他種々の手当てもある）使用人の他に、家族が一致協力して、園の仕事に従事していたため、私はよく買物（毎日の食事に必要な物）に出たが1年間位は、主人の妹より紙片に書いてもらって買物をしたが、それが非常に私のスペイン語の習得に役立ちました。

○急に買物に出かける時等は、よく手まね足まねで買物をした事等、今でもみんなの笑いぐさになっています。

5. ルハンの聖母の教会に、お礼詣りをした時、つくづくアルゼンチンは広大な国であると思いました。

世界的にも有名なルハンの聖地は、家から35キロメートル位の地点にあるがその間殆んど山が見えなかった事を思い出します。

平野には牛がのどかに群をなして、あすこにもここにも放してあった事、又油の原料であるひまわりが、見わたす限り植えてあったことも見出しします。

6. 「食生活の違い」

朝 殆んどコーヒー・ミルクとトーストパン又はサンドイッチ、紅茶等ごく簡単に

昼 ビフテキにサラダ、スープ等日本人はよく昼と夜は御飯等も一緒に食べる

夜 すきやきと御飯、スープ等昼と少し変わった形の肉料理に野菜

食後のデザートとしてよく果物やケーキ等頂きます。又曜日によって、肉料理の仕方が大体決まっております、日本人でも外人に倣っている家庭も少なくないようです。

料理の仕方は変わっても肉食国として世界第一として知られています。

7. 家屋は殆んど煉瓦を主として作られている為に、耐火建築であり、めったに火災等は起りません。

8. 建築が洋風であり、たたみ等していないので、朝靴をはくと（又はぞうり、スリッパ）ベッドに入る迄それを脱ぎません。

9. 家族に対する呼び方は、両親に対しては日本人も殆んどパパ、ママ又はバビート、コミータでよいのですが、兄弟、姉妹に対して目上に対して敬称を使いません。

例えば、末子が、自分よりも10才以上の目

上の兄又は姉を呼ぶ場合、名前を呼びすてにします。そして兄弟、姉妹の間だけでなく、伯父さん伯母さんに対しても、同じような呼びすてにするのは、最初とても変な感じでした。

三、いつの間にか長い年月の間に自分も亜国人として生活していました。

◎而しふり返ってみますと、過去22年の間、いつの間にか自分もすっかりアルゼンチンの人々（家族は勿論）に、親愛の情をもち、その中にとけ込んで全然そこにあの当時の違和感を感じずる事がなくなっていました。それは10年前からのもっと前の定かではないが、多分子供の成長につれて自から習慣を身につけていったものと思ひ、アルゼンチンの国民が、如何に親日感を持って、日本人を受入れていたかという事にもなります。結局、人間は人種や肌の色が違っても、話し合ってみれば情もあり相通ずるものがあるという事を強く感じます。

○民族性についてあれこれ思い浮かべてみますと

1. スペイン人、イギリス人、イタリー人、ポルトガル人、その他のヨーロッパ人種日本人、支那人、朝鮮人、その他……アジア人北アメリカ人、ロシア人、南アメリカ人

と殆んど、全世界中の人々が集まっているがこの国の国語であるスペイン語を話し、（各家庭ではその国の言葉もよく話して二世、三世にも教え伝えられている）どこの国の人と余り区別せず仲良く暮しています。

2. 殊に日本人に対しては、大いに尊敬の念を持って接し、日本人は勤勉、正直、清潔な国民であり、更に頭脳も優れているという観念が保たれています。それは、過去60年、50年前に、アルゼンチンに渡った日本人が、長い間に苦しみも悲しみものりこえて築き上げた、尊い日本人の地盤であり、看板ではないかと思ひます。

3. 一般に見て、非常に楽天的な国民であり花を愛し、余りこせこせせず、明日に夢をもって生きる人種であると思ひます。

4. 貯蓄するという事が余りなく、生活を楽しみ、夏休みに入ると（学校の夏休みは12月より3月上旬迄約3ヶ月余り）よく遠く海や山を求めて、避暑に出かける人が多くあります。中には借金をしてでも行くという人があるという事です。

○「アルゼンチンに於ける日本人の仕事」＝職業は一世の場合、（外交官等一部・貿易商等一部の人を除き）花卉栽培者とクリーニング業が大半を占めていたが、現在では二世が他の人種と殆んど同様各方面に進出して（弁護士医師、技師、神父、大学教授、教員その他）アルゼンチン国家の繁栄の為に、大いに貢献しています。主人も弟も、外科医として20年近く活躍していたが、現在は静養中です。そして、彼等は日本人としてよりは、むしろアルゼンチンの人として、活躍しており私の長男も現在大学1年に進み、殊にカトリック教会内の青年部で、自ら役員も引受け、外国人の中で全くその中に同化して活躍しています。

二世が既に亜国民として成長しているという事は、数年前、ボクシングの世界選手権大会が亜国で開かれた際、むしろ日本選手よりも亜国選手アカバロに応援していたというような小さな事でも、うかがわれます。

○而し面白い事に、すっかり亜国民として成長している日系二世、三世がいつまでも親と共にお米の御飯や大根、白菜等の漬物を好んで食べるのは、やはり小さい頃から両親と共に食事をしたその習慣が残っているものと思ひ、その中で大和魂も又消える事なく受けつがれていると思ひます。

○日本人の各家庭を廻って、日本の食料品、調味料、お餅、又うちわや蓑等も売って（車で廻る）非常に重宝がられている方もあり、又日本のお菓子を専門に作って（まんじゅう餅、せんべい、おこし等）繁昌している家もあります。

○豆腐屋さん等も、一週間に一度位、かまぼこや、こんにゃく等をもって配達しているのでこちらからアルゼンチンに行かれても食生活では不自由はないと思ひます。

四、22年ぶりに故国日本に帰って感じた事

○道路が狭く、昔のままなのに車と人がうんと増えていること。

○日常生活品、電機器具、衣服…セイイ品等が目を見張るばかりに発達し、品質もはるかにアルゼンチンの物より優れて、生活水準が驚く程高くなっていること。

○労働基準法が行き届いている為か、夜等八時頃にはすっかり閉店して静まり返っているのは、日本人の生活が豊かになった一つの証拠でもあるように見えます。20年前は、夜10時

頃迄殆どどの店が開いて、賑やかであったと記憶しています。

○銭湯が見えなくなりました。
○商店のサービス等は非常に感じがよく、さすがは日本であると思いました。

○アルゼンチンでは見なかったカラーテレビ自動ドアが鶴岡の個人の店に迄取入れてある事も全く驚きました。

○日本ではちょっと値切りるとすぐ負けてくれるが向うでは相当買っても殆んど負けない(店員の場合は殊更に)

五、22年ぶりに何もなかった敗戦直後の日本が驚異的な発展をとげた姿と比べ、アルゼンチン国を眺めてみますと、まだまだ国のすみずみ迄行政が行き届いておらないとつくづく考えさせられます。

ヴェノス・アイレス市を始め大きな街では文化水準がほぼ日本と変わらないが、一步避地に入ると文盲人が多く、その子供達もまだまだ教育を受けず、文化の恩典に恵まれない気の毒な状態にあります。

3年ほど前に東京スピラ修道会からシスターがヴェノス近郊の教育面で、又日本人の宗教教育、カトリックの公教要理の指導に当たっていましたが、今年の2月始めリオガジェゴというアルゼンチンの南の果に司教様のお望みで行かれましたが、そこでも多くの幼い子供達が恵まれた人々の温かい援助をどれだけ待っているかという事を痛切に感じました。○ちょっと道路の悪い処には電気もなく、郵便も届かない。

六、22年前に比べ、地班の距離がうんと縮まっています。

行く時に8日間かかった飛行機の旅が、4日間足らずでこれようになり、その日の飛行便の関係で、3日間又は直行で48時間でも往来出来るようになりました。(船の場合は4、5日間位)

親日国アルゼンチンに、今後どしどし日本人が移住して、日亜親善の為に日本民族は優秀な民族であるという誇りと自信と勇気を持って両国並びに世界の発展(人類発展の為に)の為に尽して頂きたいと思います。

○亜国ではどのような日本人を待っているかと云いますと

・農業技術者 トラクター等運転出来る人、農業一般の知識を有する人、養蜂、鶏のヒナの鑑別者、その他

・電機(器具)技術者…現在日立、東芝の支店がある。

七、アルゼンチンは、日本の面積の7倍半の広大な国であり、人口密度が日本の33分の1で、今後一人でも多くの日本人が将来有望な資源の豊かな国アルゼンチンに発展して、両国の親善と繁栄の為に尽して頂きたい願望をのべてお話しを終わります。

僅か20分間のお話しで、充分私の意を表す事は出来ませんでした。拙いお話しをお聞き頂きました事を感謝し、不十分な点は質疑応答の形で答えさせていただきます。

1ヶ月足らずの訪日期間中、美しい日本のふた昔前と変わぬ桜花を眺める事の出来た事は、本当に嬉しい事でした。が又、主人や子供達の待っているアルゼンチンに、一日も早く帰らねばならないという心境も又いつわらないところであり、それは即ち、私はアルゼンチンの人となっている事でもあると思います。

およばず乍ら私も、海外に発展されたい方々の為、ささやかな心と力を捧げ度いと希っております。

ロータリークラブの方々の益々社会福祉の為に尽され発展されます事を切に祈ります。

1972年4月18日

国の人口と面積

| | 人口 万単位 | 面積 万km ² | 人口密 度1km ² |
|--------|-----------|------------------------|--------------------------|
| 日本 | 1億 | 37.0 | 267 |
| アルゼンチン | 2,500 | 277.7 | 8 |
| 北アメリカ | 19,692 | 936.3 | 21 |
| ソビエト | 23,311 | 2,240.2 | 10 |
| ブラジル | 8,318 | 851.2 | 10 |
| パラグアイ | | | 5 |
| ボリビア | | | 3 |

現住所

Sra Yoshiko Kamegawa
AV. Corrientes 4062 C-45
Buenos. Aires
Argentina

[V] 幹事報告

- 会報到着 天童、郡山、鹿児島西、石巻東八戸東RC
- 国際ロータリー加盟承認の報告
3月12日付で367区 松山南RCが承認され 例会日 木曜日 例会場 三越松山支店
- 認証状伝達式の案内
西那須野RC (355区) 6月4日
塩原町 ホテルニュー塩原
太田西RC (356区) 群馬県 5月28日
三菱電気群馬製作所
- クラブ創立10周年記念式典の案内
能代南RC 6月4日(日)
能代市民体育館
- 例会時間及び例会場変更のお知らせ
鶴岡西RC 4月28日(金) 6時
七内旅館 登録料 1,000円

スピーカー 亀川 芳子